

令和7年度 大山崎町高齢者福祉計画推進委員会（第3回）

日時：令和8年3月23日（月）午後1時30分～2時20分

場所：大山崎町役場3階 中会議室

1. 開会

- ・委員長あいさつ
- ・傍聴希望 なし

2. 議題

- (1) 大山崎町第11次高齢者福祉計画（第10期介護保険事業計画）に係るアンケート調査報告書について

事務局からの説明（資料1）

委員長：

それでは、事務局からのご説明に対しまして、皆さまからご意見、ご質問等がございましたら、よろしく願いいたします。

委員：

まず、前回は申し上げましたが、この膨大なアンケート資料に基づき調査・分析を実施していただいておりますことにつきまして、事務局のご努力に敬意を表します。

大変な分量のアンケート資料であり、私も素人には理解が難しく、一読しただけでは最初の部分に何が書かれていたのか分からなくなるほどで、繰り返し読まなければ理解が追いつかない状況でございます。

各項目の質疑に入る前に、私以外の皆さまは専門家でいらっしゃいますので、お尋ねしたいことがございます。このアンケート結果につきまして、全体としては想定範囲内の結果と受け止めるべきものなのか、あるいは意外性のある点が含まれているのか、そのあたりをお伺いしたいと存じます。

事務局：

例年、質問内容自体は国が定めた項目となっており、多少の変更はあるものの、前回から継続して実施している中で、変化を把握することを目的としたアンケートにもなっております。例えば85歳以上の方が増えてくると、このあたりの心配が出てくるのではないかとといった点が、結果に反映されてきていると感じる箇所がございました。ただ、どの部分かを具体的に申し上げるのは難しいのですが、全体を確認しながらそのように感じたところでございます。

その上で、特に「これは意外だ」という結果が多くあったわけではございません。ただし、委員長から前回ご指摘いただいた、就労している方の社会参加について、地域の力が弱くなっていると言われる中で、どの程度地域活動に参加する意思があるのかという点につきましては、今回の説明でも触れましたとおり、企画や運営側として参加してもよいと回答された方が想定より多かったことは、嬉しい結果であったと受け止めております。

また、良い結果として印象に残った点としては、生きがいがある方ほど幸福度が高いという傾向が、クロス集計でも明確に示されたこととございます。前回ご指摘があったとおり、実際に生きがいのある方が幸福度の点数が高いという結果が示され、非常に分かりやすい傾向として確認できたと考えております。

委員長：

就労している方のほうが、地域活動に積極的に参加されるという理解でよろしいでしょうか。

事務局：

そうですね。地域活動への参加意向があるという点から、今後、地域で活動していただける方をどのように増やしていくかという観点で、退職後にアプローチすべき対象がある程度見えてきたのではないかと考えております。

ただし、具体的な方法につきましては、現時点では明確に申し上げられる段階ではございませんが、一定数の方に参加の意向があることが分かった点は大きな収穫であると認識しております。

委員：

私も今回の資料を拝見し、事務局からのご説明にもありましたように、就労している方が地域活動に参画したいと考えておられる点について、大変良い傾向であると感じました。就労されている方はお忙しく、地域活動まで意識が向きにくいのではないかと想像しておりましたが、必ずしもそうではないことが分かり、予想以上の結果であったと受け止めております。今後、こうした方々にどのようにアプローチしていくかが重要になると考えております。

また、これらの方々は10年後という遠い将来ではなく、数年以内に退職を迎えられ、その時期に一息つくことなく、退職前から退職後の生活を具体的に想像し、何らかの活動をしたいと考えておられる場合もあります。

訪問先でも、介護を担っておられるご家族の中には、介護サービスを利用する中で得た経験を地域で生かしたいと考えておられる方もいらっしゃいます。こうした方々に対して積極的に情報発信していくことが有効ではないかと感じております。

さらに、就労されている方はネット環境に強い傾向があるため、書面だけでなく、ホームページ等でボランティア募集や活動内容を発信することも重要だと考えます。すぐに参加するわけではなくても、「将来こういう活動があるなら自分に合うかもしれない」と感じていただければ、退職後の参加につながる可能性があります。その結果、長期的に見れば、将来その方が介護を必要とする立場になった際にも、地域とのつながりがあることで閉じこもりを防ぐ効果も期待でき、長い目で見て良好な関係性が築けるのではないかと感じました。

委員長：

就労されている方はお忙しいため、地域活動への参加は難しいのではないかと予想しがちなところがございます。

委員：

就労されている方にこのような問いかけをすると、普段地域活動に参加できていないことへの罪悪感から、実際以上に前向きに回答されるという心理も働くのではないかと感じるところがあります。私自身も、社会福祉協議会に勤務している立場で、自分の地域でどれほど活動できているかと問われると、どうしても業務の比重が高く、十分に関わっていない面がございます。

一方で、助け愛隊サポーターの関係で、天王山シニアクラブという退職後の男性の集まりがございますが、当初は3名から5名程度であったところ、現在では20名近くに増えていて聞いております。先日、フードパントリーの日と一緒に豚汁の炊き出しを行い、祭りでも共同で出店させていただきましたが、60歳を超えた皆さまが和気あいあいと楽しそうに活動されている様子を見ると、こうした場を求めておられる方が確実に増えていると感じます。その傾向が今回のアンケートにも表れているのではないかと思います。

また、以前、町と大学と連携して助け愛サポーター養成講座を実施した際にも、「楽しくなければ続かないし広がらない」という観点から、楽しさを意識した意識づくりや拠点づくりをキーワードとして取り組んでおりました。事業として楽しさだけを前面に出すことは難しい面もありますが、人のつながりを継続させるためには、楽しさは欠かせない要素であり、楽しさが生きがいにつながるのではないかと、今回のアンケートを拝見して改めて感じております。

委員長：

ありがとうございます。キーワードは「楽しさ」であるという点も、今回の資料から示されているところでございます。

委員：

私自身、東日本大震災の発災から2週間後に七ヶ浜町と石巻市へボランティアとして伺った経験がございます。その際、避難所ではトイレの水替えなどの作業を積極的に行う方と、そうでない方が明確に分かれておりました。

地域活動に参加されない方は、平時から地域との関わりが少ない傾向があり、一方で積極的に動かれる方は、防火訓練など日頃から地域活動に参加されている方であったと記憶しております。今回のアンケート結果の割合を見ても、災害時に同様の傾向が現れるのではないかと感じたところです。

その中で、気になった点として、大山崎地区の数値が他地域と比べて「参加したくない」がやや高いように見受けられます。この地域は新しく転入された方が多いのか、あるいは地域内でのつながりが相対的に希薄なのかもしれないと感じました。

防災に関する点は一旦置くとしても、大山崎地区の数値が高い理由について、事務局として何かお考えがあればお伺いしたいと思います。

事務局：

母数から純粋に比較できるかどうかという点もございますが、円明寺地域につきましては、住民の皆さまが同時期に団地に入居された方が多く、比較的顔見知りが多い地域であると認識しております。一方で、大山崎地域につきましては、もともとお住まいの方がおられる中で、近年新しく転入される方も増えている状況があり、そのあたりの違いが結果に表れているのではないかと考えております。

居住地域別の数値については、あまり細かく分析しすぎないほうがよいのではないかとしつつも、一定の特徴が見られる点については資料として残しているところがございます。先生がおっしゃるとおり、住民性が反映されている部分もあるのではないかと感じております。

ただし、大山崎地域でも、つながりが濃い地域は非常に濃いという状況もございますので、一概に判断することは難しいところがございます。どの地域が薄く、どの地域が濃いかと問われますと、明確に申し上げるのは難しいのですが、鏡田地域などは比較的昔からのつながりが強い地域であると認識しております。

委員長：

この地域のつながりは、防災の際に非常に大きな力となりますので、その点をどのように考えていくかが重要であると感じております。また、大山崎地域は背後に山があり、前には川があるという地理的条件から、何が起こるか分からない地域でもあります。その意味でも、委員がおっしゃった点は大変重要であると受け止めております。

委員：

アンケートの中で、地域活動に参加しているかどうかという問いがあり、その結果を分析されております。地域活動の項目を拝見しますと、ボランティアグループ、スポーツ活動、趣味の活動、学習・教養サークル、カフェ・サロングループ、地域のラジオ体操、老人クラブ、町内会など、多岐にわたっておりますが、いずれの項目においても「参加していない」という回答が最も高くなっています。

なぜ参加していないのか、その理由は明確ではありません。健康のために参加されていないのか、あるいは地域以外の場所で運動等をされているのか、その点は分かりませんが、いずれにしても、この方々が今後長寿社会を迎える中で、地域活動に取り組んでいただく必要があるのではないかと考えております。むしろ、この結果は行政施策を考える上で大きなヒントになるのではないかと感じております。最も高い割合を示している「参加していない」という層に対し、なぜ参加しないのか、参加意欲がないのか、あるいは情報が届いていないのか、その点を丁寧に見ていく必要があると思います。

また、よく言われる「公助・共助・自助」の考え方についてですが、私は以前から、自助を最も優先すべきであると考えております。行政がまず何かしてくれるだろうという「公助」から始まるのではなく、まずは自助があり、その上で共助が生まれ、最後に公助がサポートするという順序であるべきだと考えております。地域活動の状況を見ても、自助の役割は5割以上あるのではないかと考えております。

ところが、これだけ多くの方が地域活動に参加していないという現状を見ると、疑問に感じるところもございます。私自身も後期高齢になっておりますので大きなことは申し上げられませんが、現在も2つのボランティア活動に参加しており、自助の重要性を強く感じております。行政としても、自助の大切さについて、より一層の啓発に努めていただきたいと考えております。

先ほどから話題に出ておりますように、就労されている方の中には「参加してもよい」と回答されている方もおられますが、加齢とともにその意欲が維持されるかどうかは分かりません。また、幸福度については京都府内で上位に位置しており、今回のアンケートでも8点以上の高い評価が多く見られましたが、地域活動に参加していない方が多い中で、本当に満足してよいのかどうかについては、疑問に感じるところでございます。

委員長：

ありがとうございます。それでは、この点につきまして、行政としての見解、また自助・互助・共助・公助の考え方に関するお考えがございましたら、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

事務局：

非常にご指摘のとおりであると考えております。地域活動への参加意向をお持ちの方を、より地域につなげていくこと、そして自助・互助の基盤につながるような仕組みづくりについては、行政としても取り組むべき重要な課題であると認識しております。そのためにも、ホームページなどの情報発信を含め、さまざまな手段を活用しながら、行政として一定の役割を果たしていく必要があると考えております。

住民の皆さまには多様な考え方がございますが、アンケート結果からも、生きがいが地域活動と密接に関係していること、また閉じこもりが認知症などのリスクを高めることが示されております。こうしたデータを活用しながら、「地域活動に参加してみませんか」「介護予防に自ら取り組みませんか」といった形で、行政として積極的に広報・啓発を行っていくことが重要であると考えております。

委員：

数字の捉え方についてですが、今回の1から9の選択肢の中で「地域」という言葉が、町内会などのごく身近な地域をイメージされているのではないかと感じました。そのため、町内での活動に限定して回答された結果、「参加していない」という方が50%を超えた一方で、逆に言えば「参加している」方も50%おられる、という見方もできるのではないかと考えております。

また、社会資源の観点から申し上げますと、大山崎町にはスポーツクラブがございません。

一般高齢者の方の中には、自家用車を運転して町外のスポーツクラブに通われている方も多く、その場合は今回の設問では「参加している」に該当しないこととなります。さらに、今回の地域活動の項目は、いずれも複数人で行う活動が中心となっておりますが、自宅でインターネットを通じて誰かとつながりながら活動されている方や、ご自身で探求的な活動をされている方などは、この設問には含まれない可能性がございます。

このように、質問の捉え方によって回答が大きく変わる部分があると感じており、実際には多くの方が何らかの形で活動されているのではないかという印象を持ちました。

委員：

施設を利用している方や、訪問介護・訪問看護を受けておられる方は、おおむね30%弱程度であると考えます。そうした状況を踏まえると、多くの方は比較的健康で過ごしておられるのではないかという印象も受けます。そのため、委員がおっしゃったように、町が主催する活動以外の場で、何らかの活動をされている可能性もあるのではないかと感じております。

しかしながら、行政が実施できる取り組みには一定の限界があるのも事実でございます。例えば、円明寺・大山崎・下植野と地域を分けている中で、それぞれの地域にボランティア、教養、学習、趣味など、住民の力が発揮できる場を設けていくのか。そうした地域ごとの拠点づくりを進めていかなければ、行政だけでは限界があるのではないかと考えております。

委員長：

ありがとうございます。今後どのように進めていくかという点は難しいところではございますが、先ほど委員がおっしゃった、一人でも活動できるという視点につきましては、グループ活動と並行して重要な取り組みであると考えております。町内には、個人の活動が自然とつながりへと発展していくような仕組みもございますので、そうした取り組みをさらに活性化できればと考えております。

委員：

町の集まりごとは、どうしても中心部に偏りがちでございます。そのため、交通の便が悪い地域では、なかなか外出しにくく、参加が難しいという声も伺っております。参加しやすい場所で開催すれば、意外と多くの方が参加してくださるのではないかと感じております。

鏡田地区は比較的駅に近いこともあり、長岡京市内の運動施設に通われている方や、スイミングに通われている方もご近所に多くいらっしゃいます。そのため、今回のアンケートでは「地域活動に参加していない」と回答されていても、実際には別の場所で運動や活動をされている方が多いのではないかと、私たちの周囲を見て感じております。

また、男性の方は、女性に比べてカフェなどで集まる機会が少ない傾向がございます。女性はどこでも気軽に話しされる場が作りやすく、私どもが実施している「おしゃべり会」にお誘いすると、来てくださる方がいらっしゃいます。その中で、訪問看護ステーションが実施する運動プログラムなどには男性の参加率が高く、ご自身の健康への関心が非常に強いことを感じております。

趣味の活動も大切ですが、体を動かす場をつくり、「一緒に体を動かしてみませんか」と呼びかけることで、つながりが生まれる可能性もあると考えております。

ただ、交通の便が悪いという点は大きな課題でございます。車や自転車に乗らなくなると、外出そのものが難しくなり、参加したい気持ちがあっても、会場まで歩いて行くことが負担になるという声も多く伺っております。そのため、参加しにくさを感じておられる方が一定数いらっしゃるのではないかと考えております。

委員長：

通いやすい場という点は、地域ごとに確保していく必要があるのだと感じております。その場所へどのように通うかという点では、「移動」が大きな課題の一つであるというご意見として受け止めておりますが、よろしかったでしょうか。

この問題は過去にさかのぼっても大きな課題であり続けておりますので、次回以降の検討の中でも、改めて整理しながら考えていく必要があると認識しております。

委員：

先ほどの議論の延長になるかと思いますが、さまざまな活動に参加されない方が多くいらっしゃる一方で、150 ページ台以降のアンケート結果を拝見しますと、「本を読んでいますか」など、日常生活に関する多様なデータが示されております。その中で、最初にご指摘いただいた点とも関連しますが、私が特に驚いたのは、157 ページ上段の「健康について関心がありますか」という設問で、91.8%の方が「関心がある」と回答されていた点でございます。他の設問と比較しても突出して高い数値であり、正直申し上げて、ここまで高いとは想定しておりませんでした。

大山崎町民の皆さまは広報紙をよく読んでおられるということでもあり、実際に広報への関心が高いことがうかがえます。そのため、例えば「週に1回、友人やグループで文化的活動や運動をしている人は認知症になりにくい」といった社会的エビデンスもございまして、こうした情報を広報等で発信することで、健康への関心が高い住民の皆さまに対し、「やってみようかな」という意識変容につながる可能性があるのではないかと感じました。

委員長：

今ご提案いただいたように、健康をキーワードとして広報も活用していくという視点も重要であると考えております。健康づくりの取り組みとしては、「OH! やまぎき体操」もございまして。

委員：

現在、乙訓地域では「たけのこほりほり体操」というものもございまして。

委員

「たけのこほりほり体操」は乙訓在宅医療・介護連携支援センターのシンポジウムから生まれた体操でございまして。

委員長：

いろいろと工夫を凝らしながら、健康面からのアプローチを進めていただいているところでございますので、そうした実際の取り組みも踏まえながら考えていく必要があると感じております。

委員：

先ほど先生がおっしゃった健康に関する項目について、私自身もあまり注目していなかったのですが、非常に高い関心が示されていることに改めて驚いたところでございます。

市民公開講座につきましても、会場の都合から長岡京市の公民館や向日市の会館を利用することが多く、大山崎町内での開催機会は限られているかもしれませんが、広報を通じて案内すると多くの方が参加されます。特に整形の疾患などをテーマにすると、かなりの人数が集まられますので、今回のアンケート結果が反映されているのではないかと感じております。

また、当院も社会資源の一つでございますので、そうした場を活用し、人材を派遣するなど、地域貢献として取り組める部分もあると考えております。今後、そうした点についてもご提案いただければと思っております。

委員長：

ありがとうございました。大変心強いご提案をいただいたものと受け止めております。

委員：

災害時の避難場所を知っているかどうかという点につきましては、知らない方も多いのではないかと感じております。

前回の調査でも、スマートフォンをお持ちの方が多という結果がございましたが、必ずしもスマートフォン教室に参加していただかなくても、役場からのメールで情報を受け取る方法などを、高齢者の方にお伝えする機会があってもよいのではないかと考えております。例えば、体操教室などの集まりの際に、簡単に「このような操作ができます」といった説明を行い、その場でメールの登録をしていただければ、「現在、どこの避難場所が開設されています」といった情報が高齢者の方にも届きやすくなると思います。

スマートフォンの使用状況によって異なりますが、最低限の情報が受け取れるだけでも安心につながり、その時々状況を把握しやすくなるのではないかと考えております。

委員：

スマートフォンに関してですが、現在もスマホ教室のような講座が開催されていると伺っております。参加された高齢の方からは、「自分のスマートフォンを持って行ったが、講座では一部の機種ばかりを使って説明され、自分のスマートフォンでは操作が分からなかった」という声も聞いております。そのため、講座を受けても自宅に戻ると結局使い方が分からず、意味がなかったと感じられた方もおられたようです。

スマートフォンは今や生活に欠かせない時代でございますので、さまざまな機種に対応した講座を開いていただけるとありがたいと、その際に強く感じたところでございます。

委員長：

スマートフォンにつきましては、サポート体制がこれまでよりも難しくなっているという状況もございます。先日、社会福祉協議会で開催した「助け愛隊」の講座でも、スマートフォンに関する課題が挙がっておりました。これまで受けられていたサポートが受けられなくなったことから、「自分のスマートフォンを持ってきて教えてほしい」というニーズが高まっているように感じております。

それでは概ねご意見頂戴したということで、事務局に進めていただきます。

事務局：

こちらのアンケートにつきましては、今ご覧いただいた内容を最終確認したうえで、印刷作業に入らせていただきたいと思いますと考えております。

3. その他

次回開催時期につきましては、今回のアンケート結果を踏まえ、次期計画の骨子案等を作成してまいります。来年度は、年間で4回程度の開催を予定しておりますので、開催日程が決まり次第、改めてご案内させていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

4. 閉会